

2021年
3月発行

第22号 宝同協だより

め ぼ
芽 生 え



ハーとん

編集発行：宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号(宝塚市教育委員会事務局 学校教育課内) TEL:0797-77-2040/FAX:0797-71-1891



兵庫県マスコット
はばタン

一日も早い収束を願って

寄稿

「1日でも早いコロナの収束を」

宝塚医師会会長
栗田 義博

皆様、こんにちは。昨年の今頃は、誰が、今のこの様な世の中を想像したでしょう。人間は人と人とのつながりがあったからこそ、ここまでの社会、文明を築いてきました。今年は1日でも早く新型コロナウイルスを収束させ、楽しく明るい社会を取り戻しましょう。

さて、それにはまず感染の予防ですが、新型コロナウイルスは、確かに“ただの風邪”ではありません。この文を書いている1月12日現在で日本の人口は約1億2千5百万人、感染者は6万5千人、死亡者は4千114人です。つまり日本人の0.05%の人がかかり、そのうちの6%の人が亡くなっています。逆に言えば、かかった人の94%の人は自力(自分の免疫)で治り、まだ日本人の99%以上の人はかかっているのです。

では、まだ有効薬もないのに94%の人が治っているのは何故でしょう。

それは、その人の免疫によるのです。大半の人は自分の免疫で治るのです。

コロナウイルスは、新型も含め、風邪のウイルスの一種です。予防にはマスク、うがい、手洗いなど、風邪をひかない体を作るのが一番です。栄養、睡眠をしっかりととり、楽しく元気に過ごしましょう。

さて、ウイルスなど感染症が収束するには、その集合体の7割の人が免疫を持てば良いことが疫学、ワクチンの調査でわかっています。ただ、今の様な感染者の増加が続くと、医療はひっ迫し崩壊を招きます。すでにコロナのため、他の病気が診れない病院が増え、治る病気を治せない状態になっています。

では、国民の7割以上の人が免疫を持つにはどうすれば良いのでしょうか。

それは、ワクチン接種しかありません。

現在、政府、厚生労働省はファイザー社、アストラゼネカ社、武田/モデルナ社の3種のワクチンを1人2回接種が必要なので計2億7千万回分確保しています。これらのワクチンは保存方法が異なり、1本のバイアルに5~10人分が入っているため、まとまった人数の方を集めて接種する集団接種が原則になるので、[※]医師会と市が協力して行っていくための協議をしているところです。ワクチンの安全性、有効性に注意しながら、できるだけ多くの人の接種がスムーズに行えるよう頑張りますので、皆さんも御協力よろしくお願いたします。

※バイアル…注射剤を入れるための容器



2020年度 ハーとん じんけん作品賞(作文の部)入賞作品の紹介

【最優秀作文】

踏みだす一步

宝塚市立安倉中学校 二年

福田 ふくだ 一花 いちか

その日は雨だった。学校の帰り道を友達と談笑しながら歩いていった。いつもは歩くのが速い私たち。だが、その速さは少しずつ落ちていった。目の前に車輪をこぐ車椅子のおばあさんがいたからだ。雨の中、おばあさんはフードを被り、両手で一生懸命車輪をこいでいた。私たちは傘で見えなかった顔を見合わせた。一人で大変そうだ。声をかけてみようか。そのまま早足で歩いておばあさんを追い越して帰ることもできるが、そんなことはできないと、湿った空気の中感じた。友達も同じ気持ちだったのだろう。それでも、私たちはただおばあさんの背中を見て距離をとり、ゆっくりと歩いていた。そして、五分ほど歩いたところで友達が私に言った。

「声、かけてみてよ。」

一瞬ためらったが、「クツと頷き、勇気を振り絞っておばあさんのほうに小走りで駆け寄った。目線を含ませるように少しかがむと、私は一言こう話しかけた。

「あの、お手伝いしましょうか?」

僅かに声が震えた。おばあさんは止まり、私を見た。かと思うと、また両手で車輪をこぎ始め、トンネルの方へ行ってしまった。雨の音に声がかき消され聞こえなかった、私の言葉が足りなかった、など理由はいくつか考えられた。だが、言葉が返ってこなかったことに私は衝撃を受けていた。同時に、断られていないため、どうすればいいか分からなくなった。手伝ってもらいたくない人だっているよね、余計なお世話なのかな、と会話を交わし、トンネルを抜けた。すると、おばあさんの車椅子が坂道を上り始めた。坂は急ぐという程ではなかったが、私たちでも気が遠くなる長い坂だった。おばあさんはさっきより大変

そうに見えた。意を決したように、友達が言った。

「もう一回、声かけようよ。私も行くから。」

私はすぐに頷くことができなかった。さっきのことで気が重くなっており、手伝わなくても大丈夫だろうと勝手に決め付けていた。何より、勇気が出なかった。黙りこむ私を見かねたのか、気がつく友達はおばあさんに話しかけていた。大丈夫ですか、車椅子押ししましょうか、と顔を合わせてハキハキと言っていた。しばらくすると、友達の手が車椅子の押し手を握った。友達は安心したように微笑み、私を手招いた。私はすぐさま駆け寄った。友達と片方ずつ押し手を握り、傘を差し出しながら坂を上った。坂を上るとおばあさんの目的地につき、私たちは静かに手を放した。おばあさんの背中を見守りながら、ゆっくりと帰り道を歩いた。いつの間にか雨は止み、空は晴れていた。

後日、あるネットニュースを見た。ある女性が、周囲に助けを求めている盲目の男性との出会いをツイッターで報告した、という内容だった。女性は、道に迷っていた男性に声をかけ、点字ブロックがある所まで会話を弾ませながら誘導したそうだった。行動しようと思った理由を「目の前に困っている人がいたから」と女性は記者に話した。その素晴らしい対応に投稿は大きな反響を呼んだそうだった。

困っている人がいたら話しかける。簡単なようで難しいことだ。私たちの出会ったおばあさんは困っているように見えたが、助けを求めているいなかった。正直、余計なお世話だったのかもしれない。でも、見て見ぬふりをしなくて良かった。しない友達がそばにいて良かった。私たちは話しかけるのに時間がかかってしまったが、また困っている人がいたら、ニュースの女性のように自分一人でも勇気を持って行動できる人になりたい。また、そんな人が増えれば、助けを求めたい人が求められる社会になるだろう。一人一人が心地よく生きていくために、思いやりと少しの勇気を持つことの大切さを改めて感じた。勇気を出して一步を踏み出そう。目の前の人を幸せにするために。



最近、大人社会で「ほめる」とか「認める」「評価する」ことが少なくなってきたと思えることが多くなってきました。

一方で、保育所や幼稚園・学校では「ほめほめ言葉」や「ほっこり言葉」の大切さを教え、友だちのよさを見つける学習が活発に行われています。先日、ある市内の小学校で絵本「ええところ」（くすのきしげのり作）を教材にした人権学習の授業を見せていただきました。絵本は、小学校1年生のあいちゃん背が低くて足も遅くて「100センチなんか1かいもなかった」「こもない」「わたしって、ええところひとつもないなあ」と、ともちゃんに言つと「そんなことないよ」っていつてくれた…。

心温まる話です。絵も可愛いくて美しく、揺れ動く子どもの気持ちに寄り添い、思いやりと自己肯定感を育てる物語です。

授業者の担任の先生は上手に絵本を読み聞かせながら、子どもの声を引き出していました。

それは対照的に大人社会ではそんな関係はさほど見られないことに寂しさを感じます。大人は思っても声に出さないからでしょうか。それだけでもないようです。コロナ禍で家に居ることが多くなり、テレビを見過ぎているからかもしれません。ニュースや報道番組では、司会者が解説者の話に腕組みをして聞いたり、街頭に出ているアナウンサーに「○○くん」と呼んでみたり、お笑いを本職とする芸人がコロナウイルス感染症の解説をしたり、芸能人が不祥事を起こしたら、みんなで叩きまくる報道を次々と見せつけられる今日この頃です。ついつい人をけなすことに慣れてきてしまっているからかもしれません。

頑張っている人も、頑張りがたくても頑張れない人も、立派な成果を上げた人も、上げられなかった人も、それぞれ生きていることに乾杯できる社会にしていきたいものです。

【和久】

校区人権共催行事

「ほめ達！心のふれあう講演会」を終えて

11月、長尾台小学校で、日本ほめる達人協会認定講師 吉川 隆仁さんを講師にお招きし、「ほめ達！心のふれあう講演会」～ほめ上手、ほめられ上手で、喜ばれる存在に～という演題でお話いただきました。

この会は、唯一、教職員、PTA、地域の方が集まる大切な場となっており、当日は、ソーシャルディスタンスを確保して開催されました。

早速、先生から3つのお願いがありました。それは、「全力」で拍手する、うなずく、笑顔で聞くというもの。「これなら私にもできる！」と、ほめる達人、通称「ほめ達」になるためのお話が始まりました。

まず、人、出来事、モノから「価値の発見」をし、人として何事もプラスに受け止め、ピンチの出来事もチャンスに変える。そして、それらを日々の生活で心がけてみよう。

次に、ほめるとは甘やかし、おべんちゃらとは違う。また、コントロールのために使わない。〇〇してほしいから、ほめているといったものは、子どもは分かっている。そのため、「相手を認めるためにきちんと伝える、本当のことを伝える」ことが大切。

そして、ほめるには、自分が変わる(まずほめる！理由は後からつける)→相手が変わる→成長する！という「ほめるサイクル」がある。

また、ほめられ上手になるには、初級「ありがとう」「うれしい」中級「そうでしょ？」上級「よく、言われる」「あなたも正直者ね」という返事をする。

最後は、「自分をほめる」ということ。(これが何より難しい。)毎日の生活で自分の事を後回しにしているから、自分は満たされない。そのため、相手のエネルギーを奪ってしまう。また、「あなたのために〇〇してあげている」とか、「私は、これだけ頑張っているのに」など、不平不満の声、ついつい生まれてきてしまう。

そして、こうも言っておられました。

「一度きりの人生、限りある命、なりたい自分を発見して生きていきましょう！」と。

今回の講演会で、3D「でも」「だって」「どうせ」は、使わない！3S「すごい」「さすが」「素晴らしい、素敵」+「そうくるか」「惜しい」を使って自分を変えてみたいと、感じました。そして、自分の価値を発見し、認め合える人間関係を築き、言葉やジェスチャーで表現して、コミュニケーションを大切に、前向きに生きてみたいと思いました。

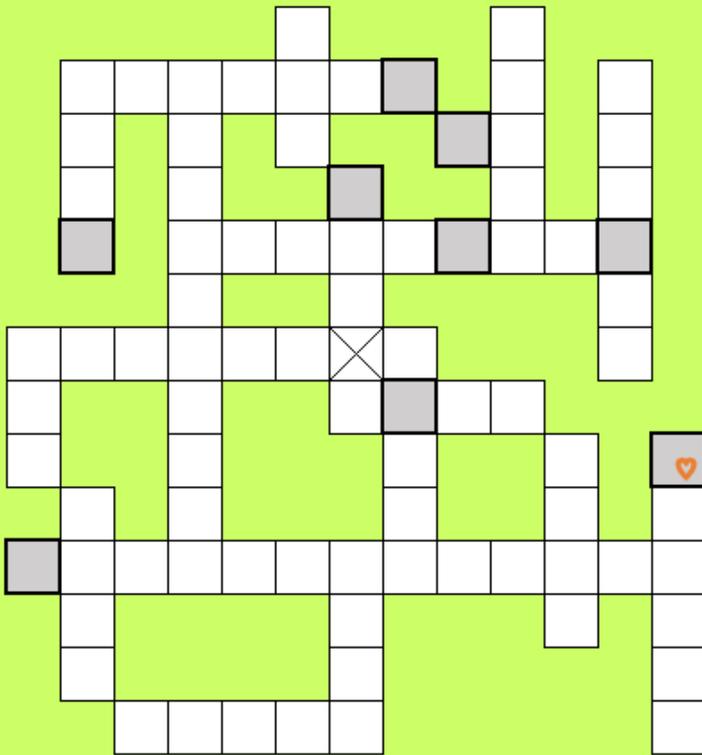
「信頼関係を築き、自分を磨きましょう！」

報告 長尾台小学校校区人権啓発推進委員会

【梅田】



芽生えパズル



<スケルトンパズル>
○たて・よこのマス目に下の文字をうまくあてはめます。

○太いマス目に入った文字を並べ替えて、ある言葉にします。
(答えは下にあります。)

- 13字 アンシンシテカンセンシタイ
- 10字 チガッタッテエエヤン
- 9字 タブンカキョウセイ
- 7字 イノチカガヤケ
- 6字 ハルイチバン
ボランティア
オタガイサマ
- 5字 オルスバン
ソツキョウ
フキノトウ
- 4字 フルサト
タンボボ
オアシス
カンドウ
イキガイ
- 3字 ナカマ
ボコク
エガオ
- 2字 ナギ

パズルの答え



【北村】

街角風景



仁川のとんど焼き



乗れた!



道端のすみれ



こんな風景
見つけました 🍀



✿ 編集後記 ✿

今年度は、「コロナ禍でもできる活動を」ということでスタートし
広報誌『芽生え』を3回発行しました。

今回は、1月の「人権交流学びのつどい」でお話をいただく予定で
した宝塚医師会会長の栗田先生にご寄稿いただき、コロナについて改
めて考えることができました。1日も早くおだやかな日々が戻って来
て、また皆様と一緒に活動できる日を楽しみにしております。

1年間大変な状況だったにもかかわらず、多くの方々に御協力いた
だき、ありがとうございました。 【 菅 】

宝同協だより「芽生え」編集委員

津国 千恵子・菅 理香・平松 友紀・梅田 美佐子
秋山 礼・北村 忠司・吉田 正邦・阪本 英次
和久 有彦・美除 浩・荻野 雅憲・中田 公平

〒4171717E1744 2景